■定期点検記録様式　定期点検結果総括表（トンネル内附属物等の取付状態）　【様式C-1-2】

フリガナ 名　称		路線名 管理者名	定期点検実施者		定期点検年月日	

定期点検結果	覆工スパン番号	異常番号	距離（m）	異常部位			異　常　の　内　容		定期点検結果		応急措置の実施状況		対応方針・特記事項
				対象箇所		部位区分	異常種類	異常の発生範囲の規模	異常判定区分		実施	応急措置の内容	
									応急措置前	応急措置後			

※　異常判定区分×について記入すること。また、応急措置により○と判定された箇所も記入すること。
※　応急措置を実施しないで判定した箇所の異常判定区分は、異常判定区分の応急措置後の欄に記入すること。
※　異常の除去が不完全で、緊急対応が必要な場合は対応方針欄に記入すること。
※　１スパンの覆工に複数の異常がある場合は、異常箇所毎に記入すること。
※　行が不足する場合は、適時、表の行を増やすこと。

■定期点検記録様式　状態の把握の内容　【様式C-2】

フリガナ 名　称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					

状態の把握の内容	覆工スパン番号	変状番号	状態の把握の内容			
			年月日	内容	結果	対策区分の判定

注）状態の把握において、微破壊・非破壊検査や各種試験等を実施した場合について記載する。

※　行が不足する場合は、適時、表の行を増やすこと。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式D-1-1】

施設ID	

フリガナ 名　称			路 線 名		定期点検実施者			定期点検年月日	
			管理者名						
写真番号	覆工スパン番号				写真番号	覆工スパン番号			
	変状番号					変状番号			
変状部位	対象箇所				変状部位	対象箇所			
	部位区分					部位区分			
変状種類					変状種類				
対策区分	変状区分				対策区分	変状区分			
	応急措置前					応急措置前			
	応急措置後					応急措置後			
変状の発生範囲及び規模			前回変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模			前回変状の発生範囲及び規模	
対策履歴			実施状況(実施日)		対策履歴			実施状況(実施日)	
メモ					メモ				
写真番号	覆工スパン番号				写真番号	覆工スパン番号			
	変状番号					変状番号			
変状部位	対象箇所				変状部位	対象箇所			
	部位区分					部位区分			
変状種類					変状種類				
対策区分	変状区分				対策区分	変状区分			
	応急措置前					応急措置前			
	応急措置後					応急措置後			
変状の発生範囲及び規模			前回変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模			前回変状の発生範囲及び規模	
対策履歴			実施状況(実施日)		対策履歴			実施状況(実施日)	
メモ					メモ				

※　応急措置後の対策区分について添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで決定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

※　変状の発生範囲の規模は、面積・寸法を記載すること。(ひび割れ幅のみmmとし、その他をm表記とする)

※　構造用鋼材以外の異物に伴ううき・はく離については、メモ欄に異物の概要を記入すること。

■定期点検記録様式　異常写真台帳（トンネル内附属物等の取付状態）　【様式D-1-2】

フリガナ 名　称		路 線 名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					

覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所				対象箇所				対象箇所			
部位区分		異常の種類		部位区分		異常の種類		部位区分		異常の種類	
異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ	

覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所				対象箇所				対象箇所			
部位区分		異常の種類		部位区分		異常の種類		部位区分		異常の種類	
異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ	

※　異常判定区分×について記入すること。また、応急措置前に異常判定区分×とした箇所のうち応急措置により○と判定した箇所も記入すること。

※　応急措置を実施した場合は、その実施状況が分かる写真を添付すること。

※　変状数に準じてシートを追加すること。

■定期点検記録様式　トンネル全体変状展開図【様式D-2-1】

フリガナ 名　称		路線名 管理者名		定期点検実施者		定期点検年月日	

トンネル変状展開図

トンネル全体変状展開図

注1：本展開図は、見下げた状態で記載すること。
注2：覆工スパン番号は横断目地毎（矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎）に設定すること。
注3：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
注4：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

■定期点検記録様式　トンネル全体変状展開図（機器の活用時）【様式D-2-1'】

フリガナ 名　称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					

トンネル変状展開図	トンネル全体変状展開図 注1：本展開図は、見下げた状態で記載すること。 注2：覆工スパン番号は横断目地毎（矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎）に設定すること。 注3：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。 注4：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図　【様式D-3】

フリガナ 名　称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					

スパン別変状展開図

【健全性判定集計表】

スパン番号			スパン長		前回定期点検時の判定	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考注2
							外力注1				材質劣化注1				漏水注1				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
17																			
18																			
19																			
20																			
21																			
22																			
23																			
24																			

集計判定診断	変状の発生規模合計(㎡)		―												覆工スパン単位の健全性の診断の区分	
	対策区分の判定結果	対策区分毎の変状数注3	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb		

所見	

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急措置を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位とすること。

（以下、印刷不要）
※1：本シートは作成洩れのないよう、変状が無くても全スパン分を作成すること．また変状展開図は、様式D-2-1、様式D-2-1'と同じものを覆工スパン単位で拡大し掲載すること。
※2：変状番号は、様式D-1-1で記入した番号と整合させること。
※3：対策区分毎の変状発生規模は、様式D-1-1に記載した面積を記入すること（ただし外力はスパン単位で評価するため変状の有無の欄には面積でなく○を記入し、備考欄に状況を記入）。
※4：本様式は覆工スパン毎に作成すること。
※5：変状数が多い場合は、適時、表の行を増やして覆工スパン毎に1枚のシートに収めること。また、1スパン１シートとし、スパンに合わせてシートを追加すること。
※6：対策区分毎の変状の発生範囲の規模とは，対策を行う際に参考となる変状の長さや面積であり，変状を包含する長さや面積とする。
※7：対策範囲を示す発生範囲の規模を面積で記入することが妥当ではない変状は、発生範囲の規模の欄に○を記入するとともに、備考に内容を記入すること。

■定期点検記録様式　近接目視による状態の把握が不可能な箇所　【様式E】

フリガナ 名　称		路 線 名 管理者名		定期点検実施者		定期点検年月日	

覆工スパン番号	対象箇所	不可能な理由	対応策

注）近接目視又は打音、触診ができない箇所を記載する。現状の評価、日常の維持管理での注意点を記載する。
※　数が多い場合は、適時、表の行を増やすこと。

■定期点検記録様式　覆工スパン毎の変状数・変状規模の集計 【様式F】

フリガナ 名　称		路線名 管理者名		定期点検実施者		定期点検 年月日	

【覆工スパン毎の変状数，変状規模】

覆工スパン			変　状　数												変　状　規　模											
番号	延長（m）	健全性の診断の区分	対策区分の判定注1												覆工スパン長（m）				変状の発生範囲の規模（m²）							
			外力				材質劣化				漏水				外力注2				材質劣化				漏水			
			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb
計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
					0				0				0													

注１：外力は覆工スパン単位で診断するため、覆工スパンの中で最も評価の厳しい対策区分の判定の区分欄にのみスパン数1を、材質劣化、漏水はそれぞれの対策区分に変状数を記入すること。
注２：外力は覆工スパン単位で診断するため、覆工スパンの中で最も評価の厳しい対策区分の判定の区分欄にのみスパン長を記入すること。
※１：本様式は様式D－3の集計結果を掲載すること。
※２：覆工スパン数が多い場合は、適時、表の行を増やしてトンネル毎に1枚のシートに収めること。
※３：本様式の集計結果に基づいて、様式Bのトンネル本体工における変状区分毎の対策区分の箇所を記載する。

■定期点検記録様式　健全性の診断の区分に関する所見【様式G】

						施設ID	
フリガナ 名　称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					

道路トンネルの健全性の診断の区分の所見

様式A～B				
トンネルの分類	トンネル工法	自専道or一般道	緊急輸送路	代替路
陸上トンネル(掘進工法)	山岳トンネル工法(NATM)	自専道	一次	有
陸上トンネル(開削工法)	矢板工法	一般道	二次	無
陸上トンネル(その他)	開削工法		三次	
水底トンネル(掘進工法)	シールド工法		市町村指定	
水底トンネル(沈埋工法)	その他		指定なし	
水底トンネル(開削工法)	不明			
水底トンネル(その他)				

様式C-1-1(本体工)、C-2、D-1-1、D-3								
対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	対策区分	健全性	調査の要否	措置の要否	実施有無
覆工	アーチ(右側)	外力	圧さ、ひび割れ	Ⅰ	Ⅰ	要	要監視	未
坑門	アーチ(左側)	材質劣化	うき・はく離	Ⅱa	Ⅱ	否	要対策	済
内装板	アーチ(天端)	漏水	鋼材腐食	Ⅱb	Ⅲ		否	継続
天井板	アーチ(全周)		変形・移動	Ⅲ	Ⅳ			
路面	側壁(右側)		沈下	Ⅳ	－			
その他	側壁(左側)		隆起	－				
	横断目地(右側)		巻厚の不足または減少、有害空洞					
	横断目地(左側)		補修・補強材の破損					
	横断目地(天端)		漏水					
	横断目地(全周)		滞水					
	水平打ち継ぎ目(右側)		土砂流出					
	水平打ち継ぎ目(左側)		その他					
	面壁・妻壁等							
	その他							
	面壁・妻壁等							
	その他							
	側壁							
	その他							
	車道側							
	ダクト側							
	その他							
	車道							
	歩道							
	監査歩路							
	側溝							
	その他							
	その他							

覆工

坑門

内装板

天井版

路面

その他

様式C-1-2(附属物)、D-1-2

施設の内訳	対象箇所	部位区分	異常の種類	異常判定区分	実施有無
照明施設	灯具	附属物本体	破断	○	未
換気施設	ケーブル本体	付部材	緩み、脱落	×	済
非常用施設	ケーブル本体以外	ボルト・ナット、アンカー類	亀裂		継続
その他施設			腐食		
	ジェットファン		変形、欠損		
	VI計		がたつき		
	CO計		その他		
	風向風速計				
	その他				
	通話型通報設備				
	操作型通報設備				
	自動通報設備				
	非常警報設備				
	点滅灯				
	音信号発生器				
	消火器				
	消火栓設備				
	誘導表示施設				
	避難情報提供設備				
	排煙設備				
	給水栓設備				
	無線通信補助設備				
	水噴霧設備				
	監視設備				
	その他				
	標識				
	天井板取付部材				
	内装板取付部材				
	吸音板取付部材				
	その他				

照明施設

換気施設

非常用施設

その他施設

付録　様式集

「道路トンネル定期点検要領（技術的助言の解説・運用基準）準拠

様式1、様式2、様式3

様式1

■定期点検記録様式　トンネル変状・異常箇所写真位置図

定期点検年月日		施設ID	

フリガナ 名　称		路線名		代替道名		定期点検 実施者		起点	緯度	
									経度	
所在地	自	トンネル工法		トンネル延長	L=　m	自専道 or 一般道		代替路の有無	終点	緯度	
	至	建設年度		幅員	L=　m			緊急輸送道路		経度	

トンネル毎の健全性の診断の区分		変状・異常箇所数合計	トンネル本体工	材質劣化	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		附属物等の取付状態	○（応急措置後）
				漏水	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ			×
				外力	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ			

トンネル変状・異常箇所写真位置図

写真番号の記載例
本体工の変状　：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】
附属物等の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】

注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。
注2：覆工スパン番号は橋新目地等(矢板工法の場合は上半アーチの施新目地等)に設定すること。

注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。
注4：施新目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

※1　トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
※2　トンネル本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて表記すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所についても記載すること。
※3　附属物等の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
※4　附属物等の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

様式２

■定期点検記録様式　変状写真台帳

施設ID	

フリガナ 名　称		路 線 名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					

写真番号	覆工スパン番号			写真番号	覆工スパン番号		
	変状番号				変状番号		
変状部位	対象箇所			変状部位	対象箇所		
	部位区分				部位区分		
変状種類				変状種類			
判定区分	変状区分			判定区分	変状区分		
	応急措置前				応急措置前		
	応急措置後				応急措置後		
変状の発生範囲及び規模		前回変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模		前回変状の発生範囲及び規模	
対策履歴		実施状況（実施日）		対策履歴		実施状況（実施日）	
メモ				メモ			

写真番号	覆工スパン番号			写真番号	覆工スパン番号		
	変状番号				変状番号		
変状部位	対象箇所			変状部位	対象箇所		
	部位区分				部位区分		
変状種類				変状種類			
判定区分	変状区分			判定区分	変状区分		
	応急措置前				応急措置前		
	応急措置後				応急措置後		
変状の発生範囲及び規模		前回変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模		前回変状の発生範囲及び規模	
対策履歴		実施状況（実施日）		対策履歴		実施状況（実施日）	
メモ				メモ			

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の判定区分は、判定区分の応急措置後の欄に記入すること。

様式3

■定期点検調査様式　健全性の診断の区分に対する所見

フリガナ 名　称		調査者 責任者名		定期点検実施年		道路ID 定期点検年月日	

道路トンネルの健全性の診断の区分の所見